



編集・発行 カトリック幟町教会（宣教企画部 広報係）
 チームミニストリー：後藤正史神父(モデレーター), アルベルト神父, 豊田尚臣神父
 〒730-0016 広島市中区幟町 4 番 42 号
 TEL (082)221-0621 FAX (082)221-8486
<http://www.nobori-cho-catholic.com>

2013 年 2 月号 No.452

神の民の司祭職

教会憲章10

アルベルト神父



第2バチカン公会議は、教会憲章で「信者の共通司祭職」に特別な注意を喚起しました。

『人々の中から選ばれた大司祭である主キリストは(ヘブライ 5,1-5 参照)、新しい民を「自分の父である神のための王国および司祭とした」(黙示録 1,6; 5,9-10 参照)。

すなわち、洗礼を受けた者は、再生と聖霊の塗油とによって、霊的な家および聖なる司祭職となるよう聖別される。それはかれらがキリスト信者のあらゆるわざを通して霊的供え物をささげ、やみから自分を感嘆すべき光へとかれらと呼んだ者の力を告げる者となるためである(1 ペトロ 2,4-10 参照)。したがって、キリストのすべての弟子は、くじけずに祈り、ともに神を賛美しつつ(使徒言行録 2,42-47 参照)、自分を神に喜ばれる聖なる生きた供え物としてささげ(ローマ 12,1 参照)、あらゆるところにおいてキリストを証明し、尋ねる人に対しては

自分たちの中にある永遠の生命の希望について解明しなければならない(1 ペトロ 3,15 参照)。』(教会憲章.第2章.10)

この文章は、「神の民」をテーマしている第2章に挿入されています。

神の民とは信徒のみを意味しません。むしろすべての信者、すなわち洗礼を受けたすべての者(教皇、司教等を含めて)を意味します。洗礼によってすべての者は神の民の成員になるように呼びかけられています。洗礼によってすべての信者は、キリストの司祭職に参加することになります。

キリストの司祭職とは愛の中に自分を捧げることです。ですから、教会憲章の第2章.10 はこういうふうに続けています。

『信者の共通司祭職と職位的司祭職(神父に授けられる職務・役務としての司祭職)とは、段階においてだけではなく、本質において異なるものであるが、相互

に秩序づけられていて、それぞれ独自の方法で、キリストの唯一の司祭職に参加している。』(教会憲章.第2章.10)

この教えは、第2バチカン公会議の新しい教えではなくて、上記にある聖書の参照が示しているように、既に教会の聖伝においてあった教えです。しかし、それが何世紀にもわたって忘却されましたが、第2バチカン公会議はそれを強く再び取り上げました。

この教えが忘却された一つの理由は、プロテスタント改革が聖職位階を否定するほど「信者の共通司祭職」を強調したためでした。そのため、カトリック教会は「信者の共通司祭職」についてあまり語りませんでした。

さらに第2バチカン公会議は、教会の本質についての省察を深めました。教会は聖職位階と信徒との区別に基づいたものではありません

ん。それゆえ、「職位的司祭
(1 ページから)

職」は信徒よりも高位であるものではなくて、むしろ愛の奉仕のための職務とみなされています。ですから、上記に述べたように、第2バチカン公会議は、何よりもまず、洗礼によって、皆が信者(教皇、司教等を含めて)であり、神の子であり、聖性へ招かれていることを強調しているのです。洗礼によって皆が神の民の成員になっています。

神の民の中に多様な職務・役務が制定されています。教会における種々の職務・役務と様々な生活の仕方についての論は神の民についての論の後に記されています。

言い換えれば、キリスト者の根本的な召命は、洗礼によって、すなわちキリストに属することによって、神の子となり、神の民の成員になることです。その意味で、教皇も司教も司祭も修道者も信徒も、全く同じ召命を生きる仲間です。

皆がキリストの司祭職に参与するように招かれています。キリストの司祭職とは、愛の中に自分を捧げることです。このキリストの司祭職に参与するのは「信者の共通司祭職」です。教会憲章の34—36は「信者の

共通司祭職」を具体的に次のように説明しています。信徒のすべて仕事、祈り、使徒的努力、結婚および家庭生活、日々の労苦、心身の休養を霊において行ない、なお生活の煩わしさを忍耐強く耐え忍ぶならば、これらのすべては、キリストを通して神に喜ばれる霊的供え物となり、ミサにおいて主の御体の奉獻とともに御父に敬虔に捧げられる(34)。

信仰による生活に信仰の宣言を一致させる(35)。

信徒は教会に属する者として社会人として与えられている権利・義務を区別することを学び、この両者の間に調和を保つように努めながら、教会の生活に参加する(36)。

日々の生活において自分を捧げることによって、キリスト者は「信者の共通司祭職」を果たし、すなわち自分のすべてを捧げたキリストの司祭職に参与することになるのです。



野間神父様の 思い出

昨年12月8日に帰天された使徒ヨハネ・野間重信神父様の思い出が寄せられました。今月と来月で紹介します。



終戦後バラックに住んでいたわが家を元気そうな3人の若者が聖堂募金のため訪れ、母が「私の娘も今、その為に出かかっていますのよ。」と笑って、いろいろ楽しい話をしてゆかれた中の一人が元気な野間神父様の青年時代です。

母は神父様になられても、元気なお兄ちゃんと呼んでいました。その母も30年前帰天しました。8月の暑い中、倒れたと電話したら、かけつけて病

者の塗油を授けてくださり、毎日声をかけに来てくださいました。臨終間際、何故か教会の電話がつながらず、賄いをしておられたUさんに伝言したら、とんで来てくださり、大きな声で、「お婆ちゃん、大好きなマリア様の所へ行きましょうね。」と言ってくださる言葉を待っていたように安らかに眠りにつきました。

神父様は、信徒に厳しく指導され、当時会長をしていた私も、筋の通らぬことをして、大目玉を頂戴した事が二度ありますが、よい教訓となりました。

亡くなられた方のお通夜によく、Fさん、(故)Yさんと行ききました。ある日、急死された方を神父様と二人で訪れた海田でのこと、教師をされていた若いご主人を生れて間もない乳飲み子を抱いて見送られる若い奥様の姿に神父様は胸をあつくされ、帰りずっと黙って車を運転されました。たまりかねて、「神様はどうして、こんな事をなさるのでしょうか？」とたずねたら、「さあ、どうしてでしょう

かね」とおっしゃった時、泣いておられたようでした。海田からの帰りなのに、神父様は道を間違われ、どこかの倉庫にぶつかり、「ここはどこでしょうか？」と笑いながらたずねたら、神父様も「さあ、どこでしょうかね」と笑いながら答えられ、ほっとしました。

神父様の人間性にふれた温かい気持ちが、忘れられません。



戦時中、満州にいた父はやはり満州におられた野間さん(当時は神父様ではなく)と知り合い、同じ広島県人、広島一中の先輩、後輩として仲良くしていただいていたようです。

戦後、日本に戻り焦土と化した広島の相生橋の上で偶然再会した時、野間さんは神父様に、父は信者になっていたと言う、お恵み(不思議な…)のご縁がありました。

その後、父は1961年 二次被爆によるものと思われる急性骨髄性白血病で亡くなりました。私は10歳(小5)でした。

野間神父様はローマに留学中で、遺された母と姉と私の3人に遠くから心

を寄せて下さり、励ましの手紙やクリスマスカードを送ってくださいました。

いつも背筋の伸びたお姿は子ども心に近寄り難く、又、大人になってもお会いするたびに一つ二つお小言を頂戴するので、少々敬遠気味の存在でした。

しかし、50年近く前の事です。母が胃の手術後、思わしくない経過に苦しんでいた時、すこぶるお上手な運転で、懇意にしておられるお医者様に連れていってくださった事や、私に婚姻の秘跡を授けてくださった事、そして、子どもを授かった時「毎日、深呼吸をしかりする事」と妊娠中の心得も教えていただいた事。など 懐かしく、ありがたく思い出します。

今は、きっと天国で父との再会を喜んでくださっていると思います。

今まで神父様が差し伸べてくださる手に十分応えられなかった私ですが、神父様がいてくださったから、幼児洗礼で何も分からない私が信仰を持ち続けられたのだと思っています。

私なりの野間神父様の思い出を、感謝と共にお伝えさせていただきました。





編集後記

野間神父様が赴任された教会では、ことごとく電球の数を減し節電。余分な衣服は何方かに進呈。自分の着る物は少なく。食べ残したオカズは、たいらげるまで保存し、捨てることは殆ど無かった。その為に食あたりし、生死をさまようことも。超節約家で頑固で実直で…。ところが、教会建設などで小教区が資金に困っていれば、ご自分の蓄財から相当額を、ポンと拠出されていたようです。清貧を地でいく姿に感銘を受けた方々から「是非、伝えておいて欲しい」と伝言を承りました。(の)

2 月からの行事予定

- 2/10 (日) †年間第 5 主日
ぶどうの会全体会
高齢者の集い
- 2/11 (月) 広島キリシタン
殉教祈念祭
- 2/13 (水) †灰の水曜日
(7:00、10:00、18:00)
- 2/17 (日) †四旬節第 1 主日
10 分間掃除
日曜学校授業
- 2/22 (金) 愛宮ラサール座
禅会 (19:00 地下聖堂)
- 2/24 (日) †四旬節第 2 主日
「平和アピール 1981」
記念行事
- 2/25 (月) 福者ヨハネ・パ
ウロ二世来広記念ミサ
(11:00)
- 2/28 (木) 祈りの集い
(18:30 地下聖堂)
- 3/2 (土) 四旬節黙想会 (～
3 日)
- 3/3 (日) †四旬節第 3 主日
パイプオルガン定期演
奏会
- 3/8 (金) みことばの分か
ち合い
- 3/10 (日) †四旬節第 4 主日
教会掃除
高齢者の集い
日曜学校四旬節黙想会
- 3/15 (金) 愛宮ラサール座
禅会 (19:00 地下聖堂)
- 3/17 (日) †四旬節第 5 主日
10 分間掃除
日曜学校卒業式
- 3/21 (木) 祈りの集い
(18:30 地下聖堂)
- 3/24 (日) †受難の主日
合同ブロック会
- 3/27 (水) 聖香油ミサ
(14:00)
- 3/28 (木) †主の晩餐
(19:00)
- 3/29 (金) †主の受難 (19:00)
- 3/30 (土) †復活徹夜際
(19:00)
- 3/31 (日) †復活の主日
家族デー

